

山形県内の鉄道沿線の活性化等に関する包括連携協定

1 協定の目的

山形県とＪＲ東日本東北本部が相互に情報共有や意見交換に努め、関係施策等について緊密に連携し協力することで、山形県内の鉄道沿線の活性化等を図り、相互の持続的な発展を目指すことを目的とする。

2 主な連携の取組

(1) 地域資源の活用促進に関すること

- 観光資源の活用、地域活性化イベントでの協力
 - ・ ワークーションの推進による旅行需要の創出
 - ・ 駅構内等での産直市の開催、県産品の販売
 - ・ 観光キャンペーンの展開
 - ・ 首都圏等との相互の移動需要を喚起する取組
- ビジネス需要拡大、地域産業の活性化に関する協働
 - ・ 列車荷物輸送の取組
 - ・ ＪＲ東日本グループとの連携による新規事業に関する協力
 - ・ コワーキングスペースの利用促進

(2) 公共交通利用の推進及び交通系ＩＣカードの利活用に関すること

- 安全でシームレスな交通ネットワーク構築の検討
 - ・ 駅において接続する二次交通の利便性向上に関する検討
- 交通系ＩＣカードの利活用による利便性向上
 - ・ 交通系ＩＣカード利用促進及びＪＲＥ POINT生活圏の拡大

(3) 防災・災害対策の連携に関すること

- 災害発生時の連携
 - ・ 運休情報等の速やかな共有・対応に関する連携
- 現地情報等のＪＲ東日本への提供等
 - ・ 災害発生が予想される際の沿線における現地情報等の提供

(4) まちづくりの推進に関すること

- 都市機能充実を目指した総合的なまちづくりに向けた協働
 - ・ 駅を中心としたまちづくりの検討

3 協定の期間

2022(令和4)年10月24日(締結日)から10年間

山形新幹線米沢トンネル(仮称)整備計画の推進に関する覚書

1 整備計画の概要

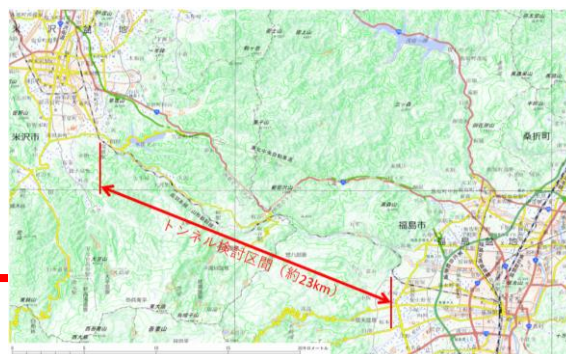
- (1) 事業区間：奥羽本線 庭坂駅（福島県）～米沢駅（山形県）間の約23kmの区間
 - (2) 工 期：着工より約15年を想定
 - (3) 事業費：約1,500億円
- } ※調査等により今後精査
- (4) 整備効果：
 - ・ **より速く！** 10分強のスピードアップ
時速200km以上の高速走行も可能な、緩やかなカーブのトンネルとなります。
 - ・ **より安全に！** 山形新幹線最大の難所の克服
大雪などによる運行への影響を減らすことで、福島～米沢間の安全性・安定性が格段に向上します。

2 覚書締結までの経緯

- 山形新幹線の福島～米沢間は、山岳区間を走り、雨、雪、動物との衝突などによる運休・遅延が発生している。
- 2017(H29)年11月にJR東日本から山形県に対し、同区間の抜本的な防災対策となるトンネルのおおよそのルートや事業費などの調査結果が示され、2018(H30)年3月から山形県とJR東日本との実務者レベルでの検討を実施
- 2021(R3)年3月、JR東日本から時速200km以上での高速走行も可能な緩やかなカーブのトンネルを検討するため、より詳細な調査を山形県と共同で実施したい旨を提案
- これを受け、山形県でもトンネルの早期事業化に向けて、この提案を受け入れ、調査費用の一部を負担することとして、2021(R3)年9月補正で債務負担行為を設定し、2022(R4)年度当初予算に調査費（19,580千円）を計上するとともに、2022(R4)年9月補正においても債務負担行為を設定（2022(R4)～2024(R6)：限度額281,000千円）している。
- 現在、本整備計画の事業化に向けた共同調査を推進し、連携方策について山形県とJR東日本との間で引き続き協議を進めている。

3 覚書の概要

- (1) 目的
 - ・ この覚書は、本整備計画の早期実現に向けた基本的な事項を定める
 - (2) 計画実現に向けた合意
 - ・ 両者は本整備計画の早期実現に合意し、取組の推進に当たっては、緊密な連携のもと、情報の交換等に努める
 - (3) 実施内容
 - ・ 事業スキーム確定に向けた検討
 - ・ 事業化に資する調査及び検討
 - ・ 財政的支援を得るための政府への働きかけ
- 等



【計画範囲図】